



札幌市博物館計画



博物館基本テーマ

「北・その自然と人」

発行 札幌市市民文化課
札幌市中央区北1西2

電話 011-211-2261

ファクス 011-218-5157

<http://www.city.sapporo.jp/museum/>

ルーツを探る方法

「クジラはカバと“兄弟”」というニュースが一部で話題になっています。これまではオオカミに似た「メソニクス」と呼ばれる原始的な絶滅哺乳類がクジラの先祖であったと考えられていたのが、遺伝子を調べた結果、実はカバでしたというのがその主旨のようです。30数億年の時間を要して水中の生活から陸上へ進出していった動物が、再び水中に適應したのがクジラです。いったん陸上に適應した動物が再び海に戻るには大変な苦難があったはずですが、誰がそんなバカことを

やったか、それがクジラの先祖を知りたがる最大の理由かもしれません。それがカバだったという訳ですが、カバは果たしてそれを聞いて喜んでい



カバ(写真:旭山動物園提供)

るのでしょうか？
カバがクジラと近い関係にあったとしても、現在のカバと同じ姿をしたものが海に入ってクジラになったわけではありません。もし、そうなら、動物園にいるカバもそのうちクジラになってしまうはずですが。本当の問題はいつごろどのような動物がどこから海に入り、現在のよう姿に変わっていったのか、そのルーツを探る確かな証拠が必要なのです。それには化石を探すこと以外に方法はありません。

これまで地球上で発見された化石はおおよそ10万種。現在、地球上に棲む生物は2000万種とも、一億種とも、いやそれ以上とも言わ

れています。2000万種だとしてもこれまで発見された化石生物の数はその0.5%にしか過ぎません。まして、これまでの生命の歴史を考えれば、私たちは地球上に存在した生物のことはまったく知らないといっても過言ではないのです。過去を想像し、未来を予測することのできる人類として、同じ地球に生きた生き物たちの姿をよみがえらせるのは大変意義のある、楽しい仕事だと思いませんか？

クジラはカバと“兄弟”？



ザトウクジラ

キーワード【メソニクス】

メソニクスは白亜紀から古第三紀に繁栄を極めた^{哺乳類}類節類と呼ばれるグループの一種で、^{蹄類}現在地球上に生息するすべての有蹄類(蹄を持つ動物)の先祖と考えられているものです。クジラは水中での生活の中で手足を退化させてしまいましたが、かつてはりっぱな蹄をもっていた動物です。そういう意味では、クジラもカバも同じメソニクスを先祖とする親せきすじにあたる^{ひょう}といってもいいのかもしれない。



「ミュージズ・レター」は、博物館(Museum)の語源であり、喜びを意味する「muse」とみなさんと博物館をつなぐ通信を意味する「letter」から名づけた交流誌です。

あっ!アンモナイトがあった! 「ビルの化石めぐり」

6月18日(日)に12年度最初の市民向け講座である「ビルの化石めぐり」を開催しました。当日は、真夏を思わせる暑い日でしたが、小学5年生から大人までの31名が、木村方一先生(北海道教育大学教授)の説明を受けながら、地下街やデパート、オフィスビルの壁や柱などで見られる化石を探索しました。

当日見つけ出した化石は、アンモナイト、オーム貝、ベレムナイト、サンゴ、厚歯二枚貝などで、参加者は都会で見つけた太古の世界に思いをはせていました。



ただいま札幌の自然を勉強中! 市職員向け講座を開講

札幌市自治研修センター主催の市職員向け講座「プラスワンセミナー」が、『札幌の2億年を探る』というテーマで5月29日(月)に開講され、当博物館計画の古澤仁学芸員が講師として2時間の講演を行いました。

参加者は、受講を希望した市職員70名で、札幌の自然を学ぼうと最後まで熱心に聞き入っていました。

また、1カ月後の6月28日(水)には、この講座の受講生を対象に、博物館計画の概要や主な資料の説明を兼ねた仮収蔵庫の見学会を開催しました。



7～9月の行事

1 夏休みの体験学習会

夏休み昆虫採集

昆虫を採集し、標本作りの方法を学びます(雨天時は室内で標本作り)。

ア 日時: 7月30日(日)9時～16時

イ 場所: 札幌市南区定山溪 他

ウ 対象: 小学3～6年生とその保護者(中学生以上)40名

エ 教材費: 500円

夏休み化石採取

化石の宝庫と呼ばれる沼田町で化石採取と標本作りを行います。

ア 日時: 8月3日(木)7時30分～16時(雨天時中止)

イ 場所: 沼田町

ウ 対象: 小学3～6年生とその保護者(中学生以上)40名

エ 教材費: 1,000円

体験学習会の申込方法はがきに行事名、参加者全員の氏名、郵便番号、住所、学校、学年、電話番号、ファクス番号を明記し、7月19日(水)必着までに市民文化課博物館担当まで郵送またはファクス(1ページ参照)でお申し込みください。多数時抽選。

2 その他の行事

「バーンズ博士来札記念講演会(8月24日(木))、体験学習会「クイズで楽しむ動物の不思議(9月15日(金、祝))、フォーラム「北・その自然と人(9月21日(木))」の開催を

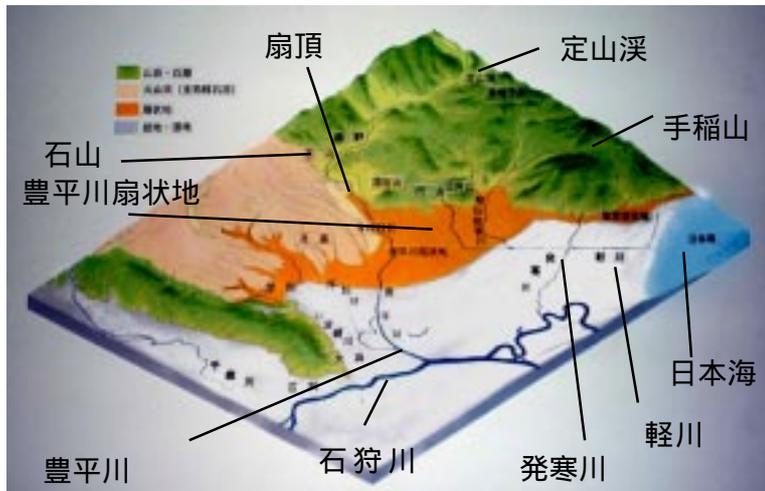
《札幌自然誌考》4 札幌の扇状地



川の働きによってつくられた扇状の地形を扇状地といいます。札幌では手稲山や空沼岳などの後背山地が形成された後、古豊平川によって山体が削られ、運ばれた砂やレキが山地から平野部に流れこむ時、土砂を扇型に堆積したのが札幌の扇状地です。

が湧き出す池「メム」が形成されました。それが、道庁、植物園、知事公館などに今も残されています。

谷の出口、扇の要にあたる所を扇頂といい、藻南公園の北の端が札幌扇状地のはじまりになります。扇状地は砂礫されきでできているため水はけがよく、川は水が地下にしみ込んで“水無し川”となります。これが、札幌の語源になっている「サッポロペツ（乾いた大きな川）」の誕生につながりました。扇状地の先端には地下を通った水



Vol. 4
3
July 10

人物伝 ファール (1823年～1915年)

仕事の虫 ファール

「1分さえ休む暇のないときほど、幸せなことはない。働くこと、これだけが生き甲斐である」といったアンリ・ファールは、1823年、南フランスの小都サン・レオンに生まれました。父親の職業はハッキリしていませんが、裕福な家庭ではありませんでした。彼自身もまた、最晩年を迎えるまで富や名誉には縁のない困窮に満ちた生活を送っています。

中学校で数学と物理を教えていた彼が、昆虫学の道に進むきっかけとなったのは、31歳の時に読んだ昆虫学者レオン・デュールの論文「タマムシツチスガリの研究」でした。タマムシツチスガリ(蜂の一種)が、ある種のタマムシを幼虫の食糧としていること、しかもタマムシが新鮮な状態で保存されていることを発表したものでした。それ

まで、昆虫学といえば、虫を採集し標本を作って記述、分類するものと思っていたファールは、生き物としての昆虫の研究に目覚めます。後年、彼は、蜂がただ一点を攻撃することで動きを止められる特定の獲物だけをねらい、その獲物を生きた状態のまま幼虫のえさとしていることをつきとめます(これによって1856年に科学アカデミーの実験生理学賞を受賞)。

彼は、独創的な工夫とたゆまない観察によって自分の目で見たことだけを記録し、多くの昆虫の生態から「最小のものにも最大の驚きがある」ことを人々に伝えました。不朽の名著とされる『昆虫記』全10巻は、優れた動物文学の古典として、今なお広く愛読されています。

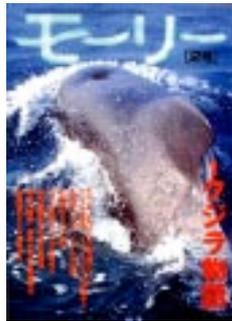
(参考図書:奥本大三郎著「博物学の巨人アンリ・ファール」ほか)

★★★★ 読んでね! ★★★★★

ネイチャーマガジン「モーリー」

北海道の自然や野生動物の現状を伝える自然総合情報誌として昨年7月に創刊された「モーリー」。「北海道を、北海道人が、北海道の言葉で語り、伝える」ことを編集の方針としているだけに、全道各地で地道に活躍する人たちの姿や活動がいきいきと紹介されています。北海道らしい美しくダイナミックな写真の数々も大きな魅力の一つです。

今年5月に発行された第2号では『クジラ』を特集。「室蘭沖ホエール・ウォッチング・ルポ」や「網走に伝わる捕鯨文化」など、クジラの生態から近代捕鯨史、はてはクジラを味わうお店の紹介までバラエティに富んだ内容になっています。本市の古澤仁学芸員も「北海道のクジラ化石」と題して執筆しています。(財)北海道新聞野生生物基金発行。1冊500円(税込み)



トビックス
「恐竜とアンモナイトの世界」

北海道開拓記念館(厚別区)で国内外の恐竜やアンモナイトの化石を集めた特別展

「恐竜とアンモナイトの世界」が開催されています。



見どころは、ジュラ紀後期(1億5千万年前)の史上最大の

恐竜・竜脚類の大腿骨や白亜紀前期(約1億年前)のティノニクスの生体復元模型などで、まさに、「ジュラシック・パーク」を再現したような世界です。また、卵の並んだ恐竜の巣(中国産)なども必見ものです。

このほか、日本の恐竜化石や道内各地で数多く見つかったアンモナイトなどの展示もあって、その起源や移動ルートなどがわかりやすく紹介されています。

また、日曜日の午後1時から3時までは、特別展示室で化石のクリーニング作業を見学することができます。博物館の裏舞台が見られる楽しい企画になっています。夏休みの子どもたちにはぜひチェックしてほしいポイントの一つです。8月13日(日)まで。【詳細】北海道開拓記念館

厚別区厚別町小野幌53 電話898-0456



【お知らせ】

昨年につづき今年も地学教育ネットワーク(日本地質学会北海道支部、地学団体研究会北海道支部、北海道地学教育連絡会)主催で札幌市博物館計画が協力する自然教室が、下記のとおり開催されます。今年は沼田町の化石についてその産状から最新の化石学「タフォノミー」について北海道教育大学の鈴木明彦先生と沼田町化石館の篠原暁学芸員に解説していただきます。

日時 9月17日(日)9:00~16:00
(雨天の場合中止)

集合 沼田町化石館前(現地集合)

対象 小・中学校の教師40名程度(多数抽選)

申込み Fax(011-200-5003)またはe-mail (hitoshi.furusawa@city.sapporo.jp)で、9月8日(金)が締め切り。詳細は参加決定者に直接連絡いたします。

編集後記

子どものころ楽しみだった夏休みがもうすぐやってきますが、夏休みの自由研究に昆虫採集をした方も多いと思います。野原でミヤマカラスアゲハやギンヤンマを追いかけたり、森でエゾゼミやノコギリクワガタを探したりしたことはいわば通過儀礼に近い経験でありました。

近ごろ捕虫網や虫かごを持った子どもの姿を見かけることは少なくなりましたが、昨年の昆虫採集の体験学習会では、当初見ることすら嫌がっていた現代っ子たちでも、だんだん抵抗なく昆虫に触れられるようになるなど、機会があれば、子どもたちは今も昔も自然に溶け込んでいけるものと感じました。

今年の夏には、昆虫のほか化石に関する体験学習会も行います。また、夏に限らず、多様な切り口で自然に親しむ機会を準備していきます。

ずっと見つからなかったものや大人になってなくなってしまったものが、たくさんの不思議といっしょに、昔遊んだ野原や森に隠れていると思いませんか。自然のしくみの探究により知る喜び=感動する体験が感じられる博物館づくりを進めていきたいと考えています。(や)

